

生き生きと旅の思い出

（勸学修協の本年度夏季教職員研修旅行作品コンクールに、参加者の旅の思い出、感動を豊かに表現した写真、紀行文等多数の応募があった。協会本部では九月二十八日写真76点、紀行文等30点について審査会を開き、入選作品を決定した。写真の部では掲載の5点が写真の部では掲載の5点が

研修旅行作品から

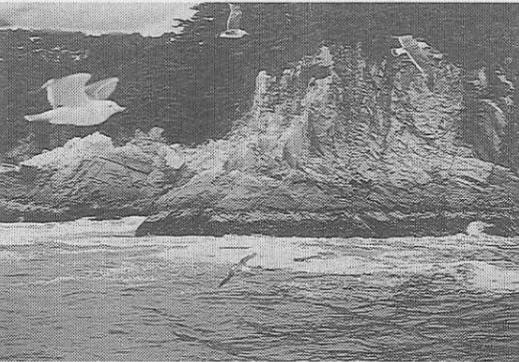
63年度夏季研修旅行応募作品 入賞決まる

◀尾瀬幽玄 真継 明美

(大阪市立堀江小学校)

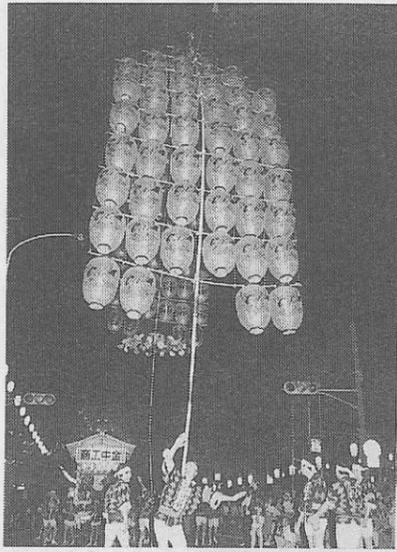


▲かずら橋のしくみを見る人々 鵜澤 芳枝 (千葉県東金市)



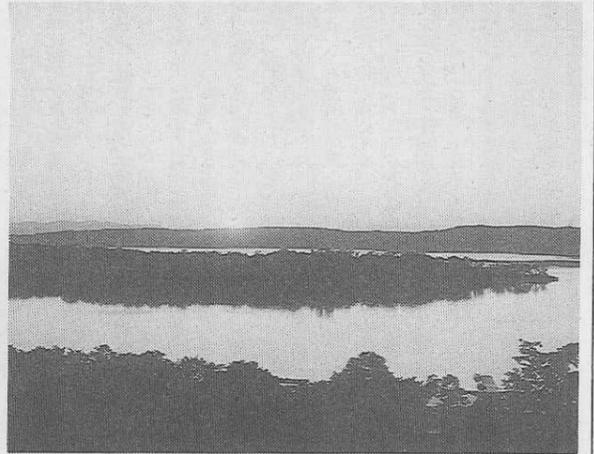
◀陸中海岸に舞う海猫たち

犬飼 静麿 (名古屋市熱田区)



◀竿灯まつり

平井 きよ (神戸市灘区)



尾瀬の夏

下川 陽子

四十年前、戦場ヶ原の湿原美に圧倒され、次は尾瀬ヶ原へと長い年月抱き続けた。願望がかなえられることになった。六十才を過ぎて足腰が弱くなってきた上に、天候不順という悪条件が旅行前の不安感を募らせた。戸倉のロッジを早朝に発つて鳩待峠に出た。川上川に沿った道で、ハクサンシャクナゲの花に出会って歓びの第一声をあげた。山ノ鼻から尾瀬ヶ原に入るアサミの群の向こうにワタスが銀白色に光っていた。花期が終ったミスバショウの大きな葉の塊に驚きながら木道を進むと、橙色のニッコウキスゲの花の中に紫色のカキツバタがアクセントをきつていた。西を向くと、高山植物の宝庫といわれる至仏山が「こっちにも来いよ」というように親しみのある山の姿を見せていた。あちこちの池塘にはオゼコウホネが葉を広げて小さな琥珀色の花をつけていた。その周りから「可愛いね」の声が連発した。木道のそばの湿地には、よそでは見られないナガバノモウセンゴケが、丸い葉のモウセンゴケを交えて赤茶色の小さな体をきつりと並べていた。貴重なランの一つといわれるトクソウも可憐な花をつけて、鮮紅色のアサヒランの花と共に緑の中に点在していた。綿毛を軽くなびかせたチングラム、白い花をつけたミズドリ、細い銀線をつくたような花のカラマツソウ、オゼコウホネも白い小さな花をつけていた。控えめだがはつきりと自分を主張している花々を見て、花の気持ちに同化しながら歩いていくと、ヤマドリゼンマイのたけだけしい群落到ち会って思わだたじろいでもあった。湿原を流れている川にはギナモがきつりと並んで生え、水の流れる身を任せていた。水中にはイワナらしい魚が泳いでいた。中田代あたりに一面にキンコウカが黄金色に輝いており、るり色に光った小さなリリボンシヤマがつがっていた。見晴に替くと、あちこちのルートから入った人々たちであふれるばかりだった。キャンプ場には、多くのテントが張られて、子どもたちの歓声が湧いていた。尾瀬の湿原を死なしてしまつたら地球全体の損失になると思ひ続けている私たちは「入山料を一人一円取つても高くない。尾瀬の自然の尊さを知っている者だけが入山資格がある。子どもたちも身近かな所で自然を学び、よく理解してから尾瀬に来るべきだ」と口々にいい合つた。尾瀬沼への林道には、ハリフキなどにまじつてゴゼンタチバナが白い花をりんとつけていた。雨の中を沼尻に着くと、尾瀬沼は水墨画さながらにフイでおおわれた湖岸を見せつけた。沼の北岸の林道をあえぎながら歩いて湿原に出ると一面のキスゲの群落だつた。十数年ぶりによく咲いたといわれるニッコウキスゲは大江湿原いっばいに咲いており、暮色のせまうた湿原は桃源郷そのものであった。尾瀬に来て胸の底から湿原を守らねばならないという気持ちになつた。尾瀬の自然はただ美しいだけでなく尊厳さをたたえていた。山道の登り降りはずつと毎年尾瀬に入つて植物たちと語り合いたいと思つた。

詩情ゆたかなみちのく一周

柳 隆明

(福岡県夜須町)

老を捨て子を問ひせしみちのく冷たき夏にたしむるにけり減反の田面埋むる作なきあらくさつづつ北上の里山きりて水管真下に伸びし見ゆタムの里人何処に散りし木の間漏るあまたの緑すいたためて飛沫躍やく奥入瀬の溪

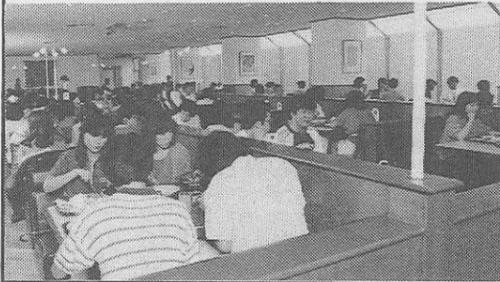
沖繩秘境の旅を終えて

宮川 トミエ

(富山市)

交わりし太平洋と東支那海はるか望めり群青の海岸(東平安名岬にて)そびえたつ立山の塔にぬかづきぬ戦場に果てし果入しのび瞳すむ青年像を見上げお師弟愛平和友情を表すしつ

修学旅行の楽しいお食事 箱根彫刻の森美術館内 レストランコンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121 ☎0460(2)1141(代表)

美しくに 伊勢志摩 伊勢内宮前 岩戸屋

内宮前でのお食事は階上・階下共1,500名様までお楽にお食事が出来ます。お食事ご休憩にご利用下さい。

おみやげコーナーは伊勢参拝記念の土産を豊富に販売致しております。



伊勢市内宮前

岩戸屋

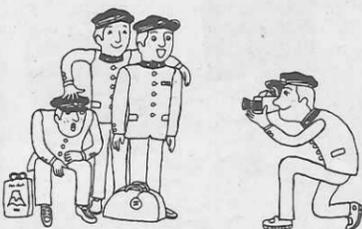
伊勢内宮前 (〒516) TEL <0596> 23-3188代 テレックス 4969-503 イセイワトヤ

楽しい修学旅行を、

より安心

出来るものに

「国内旅行傷害保険」 修学旅行用をおすすめします。



東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-212-6211(代表)

育てる心は、みんな同じ。



●営業受付時間 9:00~17:00 (3月16日~11月15日) 9:30~16:00 (11月16日~3月15日) ●修学旅行料金 高校生 1,000円 中学生 700円、小学生 600円 ガイドラジオ バス1台につき1,000円

別府あじむ草原



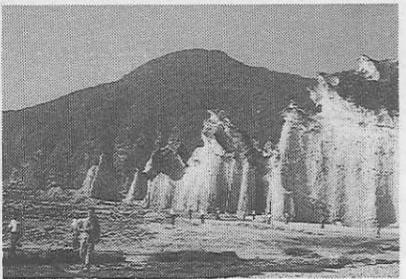
アフリカンサファリ

〒872-07 大分県宇佐郡安心院町大字南畑 ☎(09784) 8-2 3 3 1代

関修委現地研修報告 (2)

函館から仏ヶ浦へ

(財)全修協参事 澤田克郎



奇岩怪石が林立する奇勝仏ヶ浦

第二日(八月九日、快晴)  
湯ノ川→函館市内観光(ハトラヒスチヌ修道院、立待岬、元町、五稜郭)→函館港→大間(佐井)→仏ヶ浦遊覧→薬研温泉(泊)  
函館市内観光  
(1)トリスチヌ修道院 日本で最初の女子修道院として、駅前朝市に立ち寄る。

明治三十一年八人のフランス人によって創設された。湯ノ川温泉の東方4kmの緑の丘に、赤レンガの美しい建物が調和する。現在七十名の修道女が清貧、貞潔、従順の厳格な戒律のもと、自給自足の日々を送っている。

(2)立待岬 「東海の小島の磯の白砂に吾泣きぬれて蟹とたはむる」浪浪の歌人歌木本歌の歌は、海風を受け立待岬に屹立している。函館で死にたいと言おうか、箱館の戦のそれと願った早逝の詩人一族の基は、クヌヘリの紅い実にかこまれ、津軽の海に向こう「不來方」の空を見つめていた。彼の愛した大森浜の啄木小公園に座像があり、その台石に「潮かをる北の浜辺の砂山のの浜灘微よ今年も咲けるや」の歌が刻まれている。青柳町に矢車の花は見あたらなかつた。

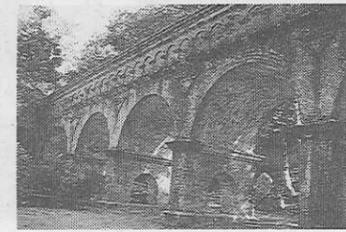
(3)元町散策 ハリストス正教会等アンティークな建物が並ぶ函館発祥の地。開港時代の古い物に新しさを加味した和洋折衷の日本最初の数々に、透明な風が吹く。石畳の坂道を海に降り抜けて、

吉田松陰時碑や二宮尊徳像、北側広場には明治初期に京都の工芸を指導したゴットフリートのレリーフがあるのも歴史を感じさせる。

函館公園一帯は、明治三十七年の内閣博覧会跡地だが、その中心が建都千百年を記念してできた平安神宮である。平安京大内裏の正庁である朝堂院を八分の五に縮小したもので、朱雀の柱に碧の瓦、東西に樓門を配した均整のとれた美しい構造だ。政府の出資もあつたが、市民一般の寄付も多かったという。京都人の意気込みを物語るものだ。できれば枝垂桜、かきつばた、萩、紅葉など四季を通して美しい神苑も見たいものだ。

平安神宮の東側に南禅寺があるが、その南側の敷上は江戸時代、京の東の玄関口。そこに、明治二十二年インクラインができた。琵琶湖からトンネルをくり貫いて排水を通じたのだが、その水は京都の飲料水をまかなうとともに、舟運に使われた。インクラインとは、舟運連絡ルートとし

「古都—その点・線・面」(4) 岡崎界隈いまむかし



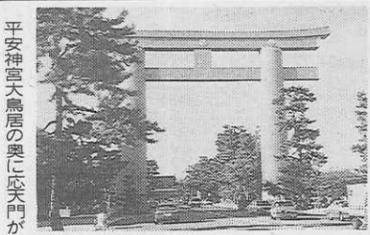
昔むしたレナ造りの水踏橋

「面」を強調するのが本シリーズの特色だが、「面」とよって「今日」を知り、明日を洞察するための何よりの手掛りになるからである。

現代の岡崎公園一帯は、京都の文化ゾーンというにふさわしい。青蓮院前から北へ歩み、疏水にかかる朱塗の慶福橋を渡ると平安神宮の大鳥居がある。その両側が市立美術館と国立近代美術館・府立図書館である。次の二条通を左折すると、右に京都府会館・公会堂、左に岡崎勸業館・伝統産業会館と続いている。

京都府会館(昭三五設立)には京都市文化観光局があつて、「京都修学旅行のあり方」についてを出しているし、伝統産業会館(昭五一)には染物、織物、陶器、漆、竹などの展示や実演もある。

府立図書館(明四二)は我が国最初の図書館で三階建てのルネッサンス式。通りに面



平安神宮大鳥居の奥に三門門が

いた。洋館の中には、喫茶店やレストランなど、若者好みは白波の見える程度で快晴、大間へ待つていたバスで佐井港へ。ここから高速船で海岸線を南下約三十分で仏ヶ浦、凝灰岩が長年の風雨と荒波に削られた、奇岩の凄まじい林立を見る。この姿が想像を絶する。この姿が想像を絶する。この姿が想像を絶する。

今、廃車になったインクラインのレールは錆び、船台が往時の面影を留め、田辺氏の置いた、白川の水を引き入れ、釣殿が配された豪華な復元造である。

修学旅行で

オリンピック観戦

ソウル

第二十四回オリンピック競技大会は、九月十七日ソウルで開幕し、数々の記録を残して十月二日閉会式を行った。東京大会を除き、日本の高校生が団体にオリンピック競技を観戦することはこれまで考えられなかったが、今回は隣の韓国での開催とあって、修学旅行中の競技観戦が可能

東名高速道路で集中工事

日本道路公団では、神奈川県および静岡県内の東名高速道路で、十月中旬から下旬にかけて集中工事を実施する。そのため、つぎのとおり夜間通行止め、車線規制を行うので注意を呼びかけている。

▼夜間通行止め 10月16日18時～17日7時、静岡→焼津の下り線。

▼一車線規制 10月17日28日の昼間のみ、東名川崎→厚木のりり線。10月17日28日の終日(曜日・昼夜を問わず)12日間連続、厚木→御殿場および袋井→浜松の各下り線、静岡→焼津の上り線。

▼最高速度は50kmに制限。▼東京→名古屋以遠へは中央自動車道の利用を。

全修協の創立記念日

秋を迎えて修学旅行生の姿もめっきり増えた。その影が応天門に長くかかる。六年後建都千百年を迎える京都。常に伝統の上に新しい創造をなしたこの岡崎界隈は、未来にどう発展するだろうか。

(財)全修協大阪事務局  
修学旅行部長 北條直樹  
(財)全修協東京事務局  
全修協の教職員研修旅行

全修協の創立記念日

十一月八日に、文部省から財団法人の許可を受けてから第三十一回目の創立記念日を迎える。

★九州一週5日間 11月11日～15日(東北地区募集)  
★日南、阿蘇、長崎とひと巡り。

KANSAI KISEN  
大阪・神戸 直行便 別府さんふらわあ 12,000円

大阪南港 19.00発 → 神戸中突堤 6.50着 → 別府 8.00着  
8.20発 → 8.20着

信頼の船旅 関西汽船  
営業本部 営業課 大阪市北区梅田1-1 ☎(06)344-7031  
東京支社 東京都中央区八重洲1-4-14 ☎(03)274-4273  
及び各支店、営業所、旅行代理店へ

座禅体験で  
"心、リフレッシュ!!"  
清潔、安全、快適、  
安心のお宿

〈国際観光旅館〉  
比叡山 延暦寺会館  
TEL 0775-78-0047・0554  
TELEX 5464-917  
FAX 0775-79-5053

|    |     |      |      |
|----|-----|------|------|
| 本館 | 17室 | 194帖 | 120人 |
| 比叡 | 28室 | 260帖 | 200人 |
| 北嶺 | 15室 | 160帖 | 130人 |
| 計  | 60室 | 614帖 | 450人 |

旅のガイドブック  
●ハンディタイプ「トラベルメイト」の旅ガイド

|                |             |              |                |
|----------------|-------------|--------------|----------------|
| 1 北海道          | 11 東京       | 21 松本・上高地・乗鞍 | 31 伊勢・志摩       |
| 2 札幌とその周辺      | 12 秩父・多摩・埼玉 | 22 穂科・清里・八ヶ岳 | 32 南 紀         |
| 3 道東(阿寒・知床)    | 13 横浜・三浦半島  | 23 富士五湖・甲府   | 33 山 陰         |
| 4 道南(十勝・襟裳・函館) | 14 鎌倉・湘南    | 24 中部・高山     | 34 山 陽         |
| 5 東北           | 15 箱 根      | 25 名古屋・東海    | 35 四 国         |
| 6 青森・秋田・八幡平    | 16 伊 豆      | 26 北 陸       | 36 九 州         |
| 7 岩手・仙台・松島・蔵王  | 17 伊豆七島     | 27 近江・若狭     | 37 北九州(福岡・大分)  |
| 8 鶴岡・会津・福島     | 18 千葉・房総    | 28 京 都       | 38 西九州(長崎・熊本)  |
| 9 日光・那須        | 19 軽井沢・伊香保  | 29 奈 良       | 39 南九州(宮崎・鹿児島) |
| 10 新潟・佐渡       | 20 戸隠・志賀高原  | 30 大 阪・神 戸   | 40 沖 縄         |

★お求めは全国の有名書店でどうぞ。発行 近畿日本ツーリスト出版事業部  
〒101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎03(257)0779/直通 FAX.03(258)3216